



豊かにする。
まちを
つながり、
つくるで

まちの部活動 ガイドブック

まちの部活動のはじまり

LIFE IS CREATIVE FESTIVAL ラ・フェス 2025 開催記録

KIITOで「まちの部活動」という言葉を本格的に展開したのは、2025年の『ラ・フェス 2025』です。さかのぼると、2015年と2019年に高齢社会におけるクリエイティブな人生のあり方を探る『LIFE IS CREATIVE展』を開催。そこで得られた多様な視点を、シニア世代にとどめず、世代を越えて分かちあうことを目指して始めました。

“来れば誰もが、何かを始めたいくなる”というコピーを掲げ、2023年に初開催。続く2025年には「部室」に見立てた10のブースを設け、各部室では活動紹介に加え、部員による実演やワークショップが行われ、来場者が実際に参加できる機会が生まれました。また、オープニングイベントでは、全国各地で「部活動」づくりに取り組んできた美術家・藤浩志さんを迎え、部活動の魅力と可能性について考えました。こうして得られた知見が、本冊子『まちの部活動ガイドブック』へとつながっています。

日時：2025年10月11日(土) → 13日(月・祝)
会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

メインビジュアル：寄藤文平(文平銀座) 会場構成：秋山晃士(神奈川大学)、長谷川明(長谷川明建築設計事務所)
タイトル・ステートメント：岡本欣也(オカキン) 主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸
デザイン：時岡佑太(rashisa inc.) 後援：神戸市教育委員会、神戸新聞社、サンテレビジョン、Kiss FM KOBE、ラジオ関西

イベントの
詳細はこちら



まちの部活動、 はじめませんか。

まちの中で、豊かに生きるために欠かせない地域コミュニティ。少子高齢化が大幅に進み、地域のつながりが希薄化した今、自治会や町内会、PTAなど、従来のコミュニティが限界を迎えつつあります。そこには従来の考えに縛られない、創造的な解答が必要です。そんな時代の新しいコミュニティのあり方として、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)は「まちの部活動」を提案します。

「まちの部活動」では、「つくること」で人と人がつながります。パンをつくらしてみたい人、洋裁が得意な人、ゲームで遊ぶのが好きな人。責任感や義務感からはじめるのではなく、それぞれの興味関心や趣味・得意を持ち寄ってゆるやかに集まり、一緒につくってみたらワクワクする活動が生まれました。

そんなKIITO発のまちの部活動をまとめて紹介します。これを手にあなたのまちを想像してみてください。料理が得意な友人が部長になるかもしれませんし、いつもシャッターの閉じている空き店舗が部室になるかもしれません。あなたのまちをもっと豊かにするヒントになれば幸いです。



Q 部活動に参加する意義は どんなところにありますか？

「つくること」でつながること、じゃないかな。今の世の中は自分でつくり出す買ってすませる方向に向かっています。人間の根底には「つくること」への欲求や、そこから得られる幸福感を求める気持ちがあるはず。「つくること」をあらためて体験した人にとっては求めていたものに出会ってやみつきになるというのかな。日常生活においてつくる体験が奪われている社会だから、それを「まちの部活動」として担保することはとても重要ですし、そこに大きな潜在的ニーズがあると考えています。

Q 「まちの部活動」に 欠かせないものを教えてください。

部活動に欠かせないのがマネージャーや部室です。言葉遊びのようで、とても大事な要素だと考えています。まず“マネージャー”とは、人や活動、地域資源をつなぐ存在です。KIITOで生まれた“パンじい”のように、パンを焼くことのできるシニアが育つことも大事ですけど、地域と活動をつなぐマネージャーの役割が重要です。まずは社会福祉協議会(社会福祉士法に基づき設置された地域福祉を推進する民間組織)からの依頼を受けて相談から始めるような、つながり自体をつくることで、地域も活動も豊かになるはず。また、活動には“部室”のような拠点も欠かせません。増え続ける空き家を地域活動の拠点として活用する「空き家の部室化」に可能性を感じています。私たちの活動でいえば、長田区の商店街にある「KIBISO(きびそ)」は、多世代交流と地域活動の拠点であり、いわば“共同部室”のような場所です。先日立ち上げたカフェ部にも定員を超える参加希望が集まり、空き家を「活動が育つ場」として活用する手応えを実感しています。

Q 「まちの部活動」を立ち上げた理由って？

まちづくりのさまざまなフィールドで仕事をしてきたなかで、自治会や町内会といったまちのコミュニティを支える組織の高齢化が著しく、それを維持することがとても難しくなっています。たとえば、避難所というのはまちの自主防災組織が立ち上げることになっていますが、組織運営が難しくなっている地域もたくさん出てきていて、となると防災訓練さえも立ち行かない。まちの組織として優等生だったはずのPTAさえ、解散する話が聞こえてくる状況です。地域のコミュニティを支えるために、義務感や責任感だけを頼りにして若い世代を含めて人を集めるのは、もう限界に達しています。

そこで「まちの部活動」なんです。興味や関心をベースに集まってきた人たちが地域で活動することを考えるほうがよほど可能性があるんじゃないかな。テーマ型コミュニティという言葉もありますが、それを部活動に見立てることでよりわかりやすくなります。まちのコミュニティを維持するには、そうやってアプローチのやり方を変えるほうが時代に合っているのではないのでしょうか。

Q ひと言でいえば、「まちの部活動」って何？

興味関心で集まる、
新しいまちのコミュニティのあり方、かな。

KIITOで始まった 「まちの部活動」 って何ですか??

これって地域コミュニティの新しい形!?

ラボやゼミとは何が違う?

まちの活動にどうつながっているの?

「まちの部活動」にまつわる素朴な疑問について

デザイン・クリエイティブセンター神戸

センター長の永田宏和に聞いてみました。

Q さすがに ユニフォームは なくても いいですよね。

パン部、カレー部、コーヒー部のメンバーにはロゴマークが付いたおそろいのエプロンを用意しています。防災部ではアートディレクターの寄藤文平さんにデザインしてもらったロゴマークをあしらったTシャツや手ぬぐいがあります。意外とそれも「まちの部活動」の大きな魅力のひとつになっています。実際、防災部の部員募集をすると、20~30人くらいの想定に対して70人ほどの応募があって、それも高校生や大学生が多かったです。Tシャツだけが理由ではないでしょうけど、活動の見た目をデザインするというのも、大したことではないようで実は大事なことです。

Q 部活動と ゼミとは 違いますか？

ゼミと部活動はまったく違います。KIITOで開催している「+クリエイティブゼミ」(グループワークを通してデザイン思考で社会課題の解決に取り組み、新たなアイデア創出から実践まで行うプログラム)はすでに40回以上開催してきました。ゼミごとに社会的な課題を設定しているので、集まる参加者は毎回異なります。ゼミは魅力的な企画や地域を耕す種を生み出す人、課題を解決できる人を育てようという目的ですが、部活動はプレイヤーを集めて、育てようというもの。部活動のマネージャーを養成するのであればゼミがおすすめ。「まちの部活動」を始めようという自治体や組織があれば、まずはゼミを立ち上げて、地域の課題に対してどんな部活動があるべきかのディスカッションからはじめれば、ゼミの参加者たちがおのずとマネージャー候補になると思います。

Q 「まちの部活動」を立ち上げるにあたって、 よくある誤解は何でしょう？

活動を立ち上げる際に陥りがちなのが、「パン部の部員募集」のような募集チラシを先に配り、参加者だけを集める形になってしまうことです。「まちの部活動」の重要なポイントは、興味関心で集まった人たちがスキルを学んで、それを携えて地域で活動することなので、いかに地域に接続するかがとても大事。だから、まずはマネージャーを養成するか、探さなければいけません。例えば、行政が部活動を立ち上げる際には、担当課内だけで完結させるのではなく、地域により近い社会福祉協議会にマネージャーや事務局のような役割を担ってもらうなど、パン部を立ち上げるための座組そのものから考える必要がある。部員募集は最後なんです。部員だけを集めても、ゴールとなる地域とつなげる道筋がなければ活動は継続できませんし、予期せぬ方向に向かってしまう可能性があります。

Q 部活動とリアルなクラブ活動、 関係は？

中学校の部活動を地域移行しようという流れがあり、中学生たちが「まちの部活動」に合流するような仕掛けができないかと考えています。「こどもの洋裁教室」という企画の参加者には中学生が多かったです。いろんな趣味嗜好、興味関心を持つ意欲ある中学生は増えていてと感じているので、つながりを意識しながら「まちの部活動」を組成できれば、多世代への広がりが生まれるはず。実際、被災地の避難所で積極的に手伝ってくれる中学生のニュースや、「イザ!カエルキャラバン!」の現場でも主体的に参加する中学生を各地で目にしています。まちづくりの現場で中学生の存在や活躍が目立ってきているんですね。そういった経験をした子どもたちが大人になれば、社会としてはもうひとつ新しい可能性が開けてくるはず。自分が地域の役に立てるといった経験を早い段階ですておくことは、地域コミュニティの未来にとって大きな意味を持つと考えています。

もうひとつは、活動のクオリティや強度をいかに担保できるか。KIITOで活動する“パンじい”は、神戸で人気のパン屋のシェフたちが顧問になっています。“パンじい”の焼くパンが実際においしいということが大事なんですね。教わる人は誰でもいいからパンづくりを学んでとにかく焼けるようになりました、ということと、多くの人が喜んでくれるおいしいパンを焼けるようになりました、ということでは話が全然違うんです。そこにただの趣味の活動なのか、「まちの部活動」と呼べるものなのかの違いがあると思います。防災部が成立するのも、子どもや家族が楽しく学べる体験型防災イベント「イザ!カエルキャラバン!」というプログラムがベースにあるからで、だからこそ長く継続できています。プログラムの強度であり、魅力ですね。それがあってから参加者の動機や意欲につながるし、それを取り巻く人の意識も変わって、活動を継続する力になるのだと思います。



KIITO発！「まちの部活動」10

パン部

#シニアと #地域で #食のこと #チームワーク #プロから学ぶ

高齢者人口は増えているにもかかわらず、明るく充実した超高齢社会だとは決して言えません。高齢者やこれから年を重ねる人たちにとって明るい未来であってほしいと考え、KIITOでは2015年から、高齢者が新たなスキルを身につけ、地域や社会に活かせるプログラムづくりを進めてきました。その一つ「男・本気のパン教室」では、シニア男性同士つながりをつくるとともに、本格的なパンづくりの技術を身につけて、地域のため、家族のため、手づくりのパンを提供することを目指しています。“パンじい”と名付けられた受講生は、これまでに1期生から3期生まで18人。プロからパンづくりを学び、練習を重ねて技術を磨き、成果発表を行ってきました。その後もイベント参加や新メニューへ挑戦するスキルアップ講座を行うなど、技術を生かした活躍の場が広がっています。

発酵時間=コミュニケーションの時間

初めての挑戦はいつになっても緊張の連続です。ですが、同じスタートラインに立つ誰かと一緒ならどうでしょう。ともに学び、失敗しながらも同じ経験を共有することでメンバー同士の関係はパンのように熟成され、育っていきます。発酵の時間は、休憩を兼ねた楽しいお茶の時間になっています。

「パンのまち」という選択

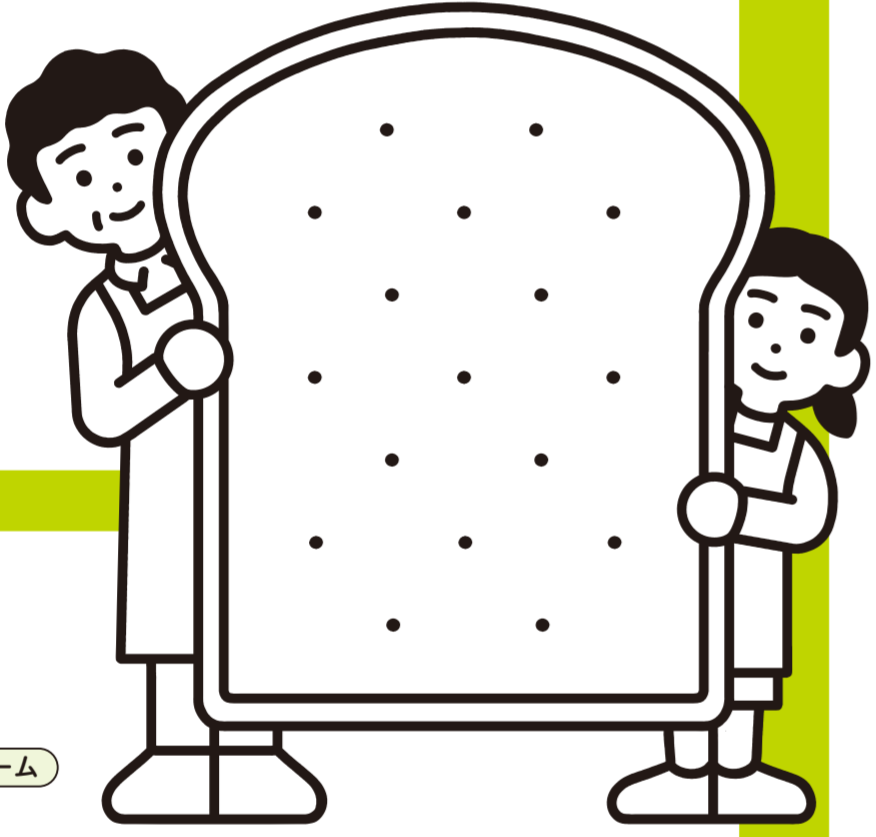
神戸=パンのまち。毎日食べても飽きないパンなら活動の場も広がるはずと考えました。プロ直伝のパンづくりは初心者にとって簡単ではありません。メンバーは、失敗を權にして重ねた練習の分だけパンづくりが上達。おかげでパンじいのイベントはいつも大人気。パンのまち神戸の魅力づくりに一役買うことになりました。

他地域への展開事例

佐賀県武雄市、広島県大竹市、福井県坂井市、静岡県浜松市、静岡県静岡市、神奈川県横浜市都筑区、大阪府堺市、大阪府東大阪市、大阪府枚方市、大阪府池田市、埼玉県川越市など

派生した展開

- 〈男・本気の料理教室〉
違いがわかる男の・コーヒードリップ教室
50歳から始める・スイーツ男子教室
スパイシーな男の・カレー教室
- KIITOピザ部で地域を盛り上げよう！
他



あそび部

#こどもと #工作 #ボードゲーム #遊んで学ぶ #つくる体験

「あそび」を入り口に、こどもたちの好奇心や探究心を育み、楽しみながら学べる場を目指す活動です。こどもたちの創造性を育むプラットフォーム「KIITO:300 キャンプ」など、これまでKIITOが継続してきたこどもの創造教育の実践を土台にしています。「ラ・フェス 2025」では、ゲームデザイナーからゲーム制作を学び、新しいボードゲームづくりを目指してプロトタイプを手がけるなど、トライ&エラーを含めた創造的プロセスを実感する機会を提供。また、「うま〜つくる」よりも「やってみる」を大切にした工作プログラム「テーマ工作」は、テーマを設けてゲーム感覚で参加できるように実施しました。あそびの積み重ねが、想像力や考える力を育てています。

あそびが「学び」に変わる

取り組みの中で、こどもたちは「どうしたら面白くなる?」「次はこうしてみよう」と考え始めます。誰かに教えられるのではなく、自分で気づき、試みる経験が主体的な学びにつながっています。また完成した作品や遊びの時間を誰かと共有することで、他の人の発想に刺激を受けたり、新しいアイデアが生まれたりするのも特徴です。

あそびでつながる

あそび部の活動は、こどもだけではなく、大人やサポーターも同じ空間で一緒に遊びます。そうすることで会話が生まれ、初めて会った人同士でも自然と距離が縮まるのが特徴。ボードゲームや工作といったあそびは、世代や背景の違いを越えて関わられるため、地域の交流拠点づくりにも応用しやすい取り組みです。

セレクトしたボードゲーム

- はじめてのゲーム・果樹園
- キノンの背くらべ
- ワニに乗る?
- キャブテン/リノ
- ito
- ディクシット

テーマ工作の例

- な虫をつくらう!
- な乗り物をつくらう!
- なプレゼントをつくらう!
- な食べ物をつくらう!
- な帽子をつくらう!
- 夢のむしむし館をつくらう!



洋菓子部

#シニアと #地域で #食のこと #お菓子作り #プロから学ぶ

「焼き菓子を作るシニアって素敵じゃない?」というアイデアを発端に、神戸の有名洋菓子店のシェフからお菓子づくりを学び、関係性づくりと社会参画を促すことを目的にした「50歳から始める・スイーツ男子教室」から始まった活動です。メンバーが考えたチーム名はフランス語で「おじいちゃん」という意味の「パピイ」。「次のメニューも学びたい」というメンバーの想いがレパートリーを増やし、これまでに習得したメニューは、マドレーヌ、フィナンシユ、クロカンなど。シェフには、スーパーで揃う材料でレシピを考えてもらうようにお願いしています。つくったお菓子を誰かに食べてもらう経験は「学ぶ」から「役に立つ」への一歩となり、メンバーの日常に新しい楽しみをもたらしています。

新たな挑戦からはじまる地域活動

お菓子づくりは、繊細な技術が求められる奥深い世界。素材を知り、厳密な計量と温度や湿度に合わせた調整など、基礎の習得が欠かせません。工程数の多いお菓子作りの楽しさと難しさは表裏一体。一度にたくさん作れる洋菓子は、自然と練習回数が増えるのも特徴です。覚えた知識や技術は、リタイア後の人生における自信となり、社会参加への切符につながります。

お披露目は学びとセットで

活動を続けるためには、技術の習得だけではなく、活動を外にひらいていくことも大切。そのため、学びとセットでのお披露目会も欠かせません。お披露目の場では試食を通して地域や関係者とも出会い、対話が生まれます。この出会いがきっかけとなり、販売会や勉強会、こども向けのワークショップの講師など、さまざまな場へ声がかかるようになりました。

他地域での類似事例

男・本気の焼き菓子教室(大阪府堺市)



パーティー部

#プロから学ぶ #みんなで作る #こどもと #創造的な学び #食のこと

KIITOでは、2012年の開創以来、こどもを対象とした体験型プログラム「ちびっこうべ」を開催しています。このプログラムでは、学校や家庭では出会うことの少ない、専門的な職能を持つ大人たちと関わりながら、知識や技術に触れ、こどもの好奇心や探究心を育むことを目指しています。パーティー部では、自ら考え、学びを深めていく「ちびっこうべ」の考えをもとに、「ラ・フェス2025」のクロージングパーティーをこどもたちともにつくり上げました。(料理チーム)とく会場づくりチーム)に分かれ、コンセプトづくりから、料理、会場装飾、当日の運営までを行いました。こどもたちから生まれたアイデアを実際に形にし、自分たちの手でつくり上げる経験がこどもの主体性を引き出しました。

創造力を育む学びのプロセス

本番となるパーティーはこどもたちだけでなく、一般の方も招いて実施。つくって終わるのではなく、自分たちでイベントを運営し、発表する「伝える」プロセスが、かけがえのない学びへとつながります。これは、「知る」「考える」「つくる」が伝えるという、自分で創造するための4つのプロセスを体験してもらう「ちびっこうべ」が大切にしている理念に基づいています。

みんなで作ると広がる学び

参加者みんなが楽しめるパーティーを実現するには、適切なチームワークが欠かせません。パーティー当日に向けてチームや講師と対話しながらつくり上げていくことで、チームワークの大切さを学ぶとともに、自分の得意に気づくことも。仲間とつくる経験は、一人の力では成し得ない学びが詰まっています。

カレー部

#本格派 #スパイスキーマカレー #シニアと #地域で #食のこと #プロから学ぶ

カレーはこどもから大人まで万人受けするメニューで、種類も豊富です。クミンはがん予防、ケムリックは強心作用をもつなど、スパイスには健康効果も期待できることからシニアを対象とした新しい食プロジェクトのメニューに決定。神戸のフレンチレストランのシェフを講師に迎え、約20種類のスパイスを使った本格的な欧風スパイスキーマカレーを学ぶ「スパイシーな男の・カレー教室」を開催したところ、平均年齢75歳のパワーのあるメンバーが集まりました。野菜を切って炒めたり、美からスパイスを粉砕・調整したり、カレーづくりは並行して行う工程がたくさん。自主練習を重ねてカレーづくりの腕を高めるとともに、こども食堂でカレーをふるまうなど活動の場を広げています。

「本気」が引き出す主体性

市販のルーに頼らず、本格的に学ぶことで新たな発見が生まれ、愛情がこもりやす。スパイスはちよつとした配合の違いで香りや味が変化し、銜色に仕上げる玉ねぎは炒め具合の調整が大事。簡単すぎないレシピに挑むことで、メンバーのモチベーションは本気モードへと切り替わり、自ら習得する姿勢が自然と生まれました。

自然なチームワークの醸成

カレーづくりは、作業量が多く同時進行で進める必要があるため、役割分担が大切です。担当を決め、それぞれが工程を担い、一つのカレーを仕上げます。この作業分担が自然なチームワークづくりのスパイスとなり、チーム感が強まるのもカレー部の特徴。「カレー男(だん)」というチーム名とロゴマークもメンバーの話合いから生まれました。

コーヒー部

#シニアと #バリスタ #一杯の価値 #プロから学ぶ #食のこと

豆を挽き、フィルターに入れてお湯を注ぐシンプルな工程ですが、美味しいコーヒーを淹れることはそう簡単ではありません。また、コーヒーを自分で淹れたことがあっても、誰からか学んだことのある人は少なく、スタートラインが同じであることもコーヒー部の特徴です。メンバーはコーヒー店を運営するプロから、コーヒー豆の基礎知識、産地から日本に届くまでの工程、ハンドドリップなどを学び、ホットコーヒーやアイスコーヒー、カフェオレの淹れ方を習得。1期生、2期生の混合チームのチーム名は「淹(えん)」。子育てサロンや児童館などでコーヒーを提供する活動を行っています。

背景を学び、一杯の価値を伝える

コーヒー豆がどのような場所で育てられ、生産者などの手を経て一杯のコーヒーになるのか。技術だけでなく、その背景を学ぶことで、生産者と消費者の関わりが見え、コーヒーに対する意識の促すことで、一杯一杯丁寧に淹れる姿勢が育れます。コーヒーを淹れながら学習した知識を伝えることも活動の大切な要素となっています。

定期的な復習による「手癖直し」

活動を続ける中で、「当初学んだことから手癖が出てきているのでは」という声がメンバーから上がり、定期的に講師の指導を受けるなど、自分たちのやり方を振り返る機会をつくっています。こうした復習と再確認が、提供するコーヒーの品質維持とメンバーの自信につながっています。

他地域での類似事例

大阪府堺市、池田市、東大阪市、枚方市、静岡県静岡市、兵庫県芦屋市、洲本市

派生した展開

パン部や洋菓子部との合同での活動



紙袋灯明部

#こどもと #シニアと #達成感 #地域で #地上絵

カラフルな紙袋とろうそくを使って光の地上絵を描く活動です。博多発祥の灯明イベントを全国で展開する一級灯明師を講師に迎え、仕組みや地上絵の描き方、作業のコツを学習。駐車場の一角をキャンパスとする小規模な練習から始め、公園の広場で地上絵に挑みました。その後、須磨寺から依頼を受け、約2,000個の紙袋灯明を使った地上絵を完成させ、幻想的な光で多くの来場者を魅了しました。この部活動をきっかけに、阪神・淡路大震災の復興イベントの一環として、長田区の商店街での灯明イベントを継続的に実施しているメンバーもいます。

こどももシニアも、みんなで作れる

地上絵の原画作成や、灯明を灯す現場作業はみんなの力が大きな支えとなります。材料は安価で構造もシンプルなので仕組みを理解すれば小学生でも参加でき、イベントを通して多世代の交流が生まれていきます。

安全な仕組み

火を使うため、実施にあたっては慎重さが必要ですが、砂による消火効果で安全性が高いのが特徴です。実際に燃焼テストを行うことで、お寺や公共空間での実施も可能です。

他地域での類似事例

紙袋灯明で彩る灯りのアート 須磨灯明
コエトコびか市 灯明ワークショップ(埼玉県川越市)



防災部

#多世代と #地域で #防災のこと #楽しく学ぶ

「つまらなそう」「大変そう」といった防災活動の印象の背景には、防災を自分ごととして捉えにくいことや、高齢化・核家族化の進行による地域共助の低下といった課題があります。KIITOと防災+クリエイティブ分野の活動で協働してきたNPO法人プラス・アーツでは、ひとりひとりが防災について主体的に考えること、そして人と人との交流が生まれることが重要だと考え、日本各地はもとより、世界各地において地域が一丸となって防災活動に取り組んでもらえるよう支援活動を展開してきました。防災部は、身近な地域の防災活動がこれまで以上に魅力的なものになることを目指し、役割や義務感からではなく、自分ごととして関われる防災のあり方を育てための活動です。

正しさプラス楽しさ

防災の知識や技を広めるためには、正しく学ぶことはもちろん、「楽しさ」が欠かせません。防災訓練に、美術家・藤浩志さんが考案したおもちゃ交換会「かえっこバザール」を組み合わせた「イザ!カエルキャラバン!」は、家族や友人と遊びながら学べる防災イベント。この取り組みは日本各地へと広がり、地域の人々の心に防災の意識がしっかりと芽吹いています。

防災の未来をみんなで作る

手芸が得意な人に訓練用の人形を縫ってもらったり、読み聞かせが得意な人に防災紙芝居をしてもらったり。地域に住まう人それぞれが持っている「得意技」を活動に生かしていくことで、「義務」ではない主体的かつ積極的な防災への関わり方を提案しています。担い手の高齢化や参加者の固定化といった課題を抱える防災の現場に対して、多世代が関わり、息の長い地域防災へとつながる未来を目指しています。

派生した展開

防災部のルーツとなっている「イザ!カエルキャラバン!」は、これまで全国39都道府県で665回以上開催されています。(2025年度末現在)

洋裁部

#シニアと #ものづくり #好きなこと #リメイク

洋裁の技術を活かし、毎日の装いを心から楽しむことを目指して2015年よりスタートした「大人の洋裁教室」。60〜70代の洋裁経験者を対象としたこの教室には、これまでに約70名の参加者が集まり、その後も互いの近況や体調などを気にしながら、賑やかに活動を続けています。着なくなった着物をよそいきのワンピースや夏のシャツに仕立て直す「和服のリメイク」からスタートした教室は、自分のための洋裁技術向上だけでなく、小学生と洋服や小物をつくる「こどもの洋裁教室」で講師を務めたり、図書館や無印良品と連携したりと活動が広がっています。「自分のため」だった洋裁が「誰かのため」のものづくりへと変化し、活動は新たなフェーズへと進んでいます。

難しい技術やデザインへの挑戦

着物をほどこいて反物に戻す作業や工業用ミシンへの挑戦など、専門的で細やかな過程を繰り返して学ぶことで、受講生たちにはチームワークが芽生え、誰かがつまずいたらフォローするという関係性が生まれています。その成果は作品のクオリティ向上にもつながっています。

制作のゴールとなる晴れの日を

ただつるだけでなく、ファッションショーを開催することでプロによるヘアメイクやポートレート撮影を経験。装いに対する意識も大きく変化しました。また、イベントでの作品展示や販売、活動紹介を行うことで創作に対する自信とやりがいも生まれ、洋裁の技術を磨くことへのモチベーションが高まっています。

好きなことを社会にひらく

はじめは地域活動を目的としたものではなく、参加者の洋裁技術の向上と日常の楽しみのための活動でしたが、続けるなかで、多様な連携や交流が生まれ、活動が自分自身から社会や地域へと自然にひらいていきました。たとえば隣人が裾上げを必要としているときに手を差し伸べられるような、ささやかな社会とのつながりを目指しています。

他地域での類似事例

- 港まち手芸部(愛知県・名古屋市)
- kioku手芸館「たんず」
(大阪府・西成区)



ピザ部

#シニアと #仮設のピザ窯 #公園で #プロから学ぶ #火起こし #食のこと

地域コミュニティの拠点としてさまざまな役割を果たせるはずの公園が、閑散として使われていないところが多い現状です。そのような背景のもと、「ピザづくりを通して公園で地域交流ができないか」という問いから活動が発足。メンバーは、神戸のピザ店のシェフからピザ生地づくり、キャンプマスターから火おこしや温度管理を学び、実践と練習に励んでいます。温度の調整や焼き時間の調節など、回を重ねるごとに改善点が明らかになり、ピザのクオリティが向上。また、火おこしの知識や技術は災害時に役立つサバイバルスキルにもなることから、公園の活性化に加えて、地域における自助力になることを目指して活動しています。

不便さから生まれる協調性

ピザ窯は、どんな公園や場所でも展開できることが重要なポイント。約170個のレンガ、コンクリート板、ブロックなど、ホームセンターで手に入る素材だけでつくる簡易なもので、炭や薪を使って約300℃まで温度を上げられます。ピザ窯の組み立てには、人手と連携作業が不可欠。「おいしいピザ」という共通の目的のもと、参加者同士で役割を担うことで世代を越えた交流が自然と生まれています。

常設ではなく仮設で

地域にある公園は周辺の環境や園内設備、利用のルールなど条件はさまざま。都市公園法により建物などを建てるにも制限があります。そんな場所でピザ部が活動するための交渉や予算づくりは容易ではありません。そこで、異なる条件のもとでも展開できるよう、常設ではなく仮設のピザ窯を使うという仕組みづくりを行いました。

アイデアはどこまでも他にもこんな部活動を。

興味関心や趣味、得意なことを持ち寄りてゆるく集まることをきっかけとした「まちの部活動」は、紹介した10の部活動以外にもアイデアはどこまでも広がります。

例えばこんな部活動

餃子部、銭湯部、コスメ部、読書部、舞子部、哲学部、立ち飲み部、寝部、散歩部、ピクニック部、骨董部、飲酒会、園芸部、BTS部、編み物部、人形部、コスプレ部、クリエイティブ部、まちあるき部、ネイル部、フィールドレコーディング部、歌部、詩部、手話部、英語部、盆踊り部、マジック部、体操部、歴史部、節約メシ部、韓食部、老若男女ごちゃ混ぜ部 etc.

